

令和4年度 事業計画書

令和4年3月
学校法人十文字学園

目 次

I. 教育・研究・社会貢献に関する計画.....	1
1. 十文字学園女子大学.....	1
(1) 学生募集、大学広報に関する計画	
(2) 教育の質に関する計画	
(3) 学生生活の充実、学生の満足度に関する計画	
(4) 就職支援・就業力の育成に関する計画	
(5) 研究および地域連携活動の活性化に関する計画	
(6) 国際交流に関する計画	
(7) 大学固有の管理運営に関する計画	
2. 十文字中学校・十文字高等学校.....	6
(1) 生徒募集、学校広報に関する計画	
(2) 教育改革、教育の質に関する計画	
(3) 中学及び高等学校各コースの教育、進学・進路に関する計画	
(4) 生徒支援、生徒の満足度に関する計画	
(5) 教育体制及び学校改革に関する計画	
3. 十文字女子大附属幼稚園.....	9
(1) 園児募集に関する計画	
(2) 教育・保育に関する計画	
(3) 保護者との連携に関する計画	
(4) 十文字学園女子大学との連携に関する計画	
(5) 地域との連携に関する計画	
II. 管理運営に関する計画.....	11
(1) 学園組織のガバナンス機能に関する計画	
(2) 内部質保証に関する計画	
(3) 人事・組織に関する計画	
(4) 財政基盤に関する計画	
(5) 施設整備に関する計画	
(6) 広報に関する計画	
(7) その他の管理運営に関する計画	
III. 施設設備に関する計画.....	14

I. 教育・研究・社会貢献に関する計画

1. 十文字学園女子大学

(1) 学生募集、大学広報に関する計画

【中期目標（以下、同じ）】

アドミッション・ポリシーのもと、一貫性のある広報、戦略的な募集、入試制度の改革を通じて、志願者を増加させ、入学者を確実に確保する。

【中期計画（以下、同じ）】

- 各学部学科の入学者数管理のもと、各年度における学園方針の入学者数を確保する。
- 広報活動の充実を図り、大学の認知度を向上させつつ、ブランドの周知につとめ、各年度の志願者数を増加させる。

【令和4年度事業計画】

- ・育成型入試の一環として総合型選抜体験会を導入し、志願者数増加と目標入学者確保を実現する。
- ・受験生応援サイトの見直しと模擬授業動画作成により大学認知度の向上を図り、志願者数を増加させる。
- ・学科紹介動画の作成とHPの見直しにより大学認知度の向上を図り、志願者数を増加させる。

(2) 教育の質に関する計画

全学生のディプロマ・ポリシー達成を目指し、学びの満足度を高めるとともに、学修成果の可視化を図り、学生が自己の成長を実感できる教育体制を実現する。

- 全ての学生が本学での学びを通して、自己の成長を確認できる体制を確立する。
- 「何を教えたのか」という教員目線の教育から、学生自身が「何を学び、何を身につけたのか」をエビデンスをもとに可視化し、学生自身の言葉で自らの成長を説明できる教育を実現する。
- 今後の社会動向を見据えて、共通教育を再構築する。
- ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいて、開講すべき学科専門科目を見直す。
- 授業外（事前学習、事後学習）において、主体的に学習する態度を全ての学生に身に付けさせる。

【令和4年度事業計画】

- ・学生が自己の成長を確認できる手段である学修ポートフォリオの活用促進を進める。履修指導体制の見直しを行い、学生が履修登録の段階から学修ポートフォリオで自身の達成度の振り返りと記入を行う仕組みづくりを進める。また、学修ポートフォリオの活用状況をもとに課題点を検証する。
- ・3ポリシーに基づく体系的で組織的な教育の展開と、成果についての学位課程（プログラム）共通の考え方や尺度に則った点検・評価を実施する。
- ・学修ポートフォリオにおける学修度の本格実施と検証を行う。また、学修成果のディプロマサプリメントの様式について、先行事例を確認する。
- ・新領域の科目として「数理・データサイエンス・AI教育」の科目をオンデマンドで実施する。履修学生の学修状況やアンケートを実施し共通教育委員会において検証を行う。また、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育」の認定制度プログラムの申請にむけて準備を進める。

- ・第四次教育体制改革の課題検討委員会において完成年度以降の改正カリキュラムにおける DP・CP の検討に着手する。また、完成年度以降の改正カリキュラムにおける履修モデル作成に向けて内容の検討を行う。
- ・学びの PDCA サイクルを構築するためのガイドブックである「学びのガイドブック」の改定をすすめ、大学での学修について学生に理解を深める取り組みを行う。
- ・授業外において学習態度を身につけさせる取り組みとして、UNIPA 機能の改善、及び学修環境整備を行う。
- ・全学生の PC 必携化に向けての準備を進める。

教育目標の実現を保証すべく、全学的な教学マネジメントを確立し、不断の PDCA サイクルを展開する。

○学修成果の可視化を支える諸制度について改善する。

○客観的指標に基づいて、教育課程の適切性を評価し、改善する仕組みを構築する。

○教学 IR を活用して、本学の教育活動における課題を探究し、教育体制や方法を継続的に改善する。

【令和 4 年度事業計画】

- ・成績評価の信頼性・適正性担保のため成績評価基準の本格運用と検証を行い、並行して成績評価ガイドラインの作成を行う。また、授業レベルでの評価の透明性を高めるために、科目ルーブリックの作成を推進する。
- ・CAP 制の例外科目における条件の運用を確実に行うとともに学生の履修状況の検証を行う。
- ・GPA の達成度分析状況を調査して、評価検証を行う。
- ・学修成果に関する情報、大学全体の教育成果に関する情報の的確な把握・測定を行い、教育活動の見直し等のための適切な活用を促進する。
- ・教学 IR を活用して、教学改革をどのように推進できるか関係各所と連携のうえ検討を行うとともに、教学マネジメント指針にある FD 活動を推進する。
- ・PDCA サイクルを大学全体、学位プログラム、授業科目それぞれの単位で有効に機能させ、検証結果をプログラムの改善・進化へと繋げる改革サイクルの定着化させる。
- ・本学の強みと特色を意識した発展の方向性を明確化し、そのための適切な情報を提供する。

（３）学生生活の充実、学生の満足度に関する計画

学生の実態を的確に把握して、学修や学生生活全般にわたって支援する。また学生支援の質を向上させ、学生満足度を高める。

○本学の特徴である「面倒見の良さ」を向上させるための学生支援体制を確立する。

○課外活動を活性化させる仕組みを構築する。

○休退学者予防の対策を講じる。

【令和 4 年度事業計画】

- ・学生が学生をサポートする仕組みについて他大学の取組も参考にしながら検討し、令和 5 年度試行に向けて準備する。
- ・学生の出欠状況を UNIPA を利用し把握し、欠席の多い学生へは面談等により迅速に状況の確認を行うとともに、担任、学生総合相談センター、学生支援課等多方面から支援を行うことにより休・退学に繋がる学生を減らす支援体制を構築する。
- ・学生相談内容について分析し、代表的な相談内容については、未然防止策、解決のアイデア・ポイントについてまとめ提示する。

- ・令和3年度に見直しを行い令和4年度から改正しスタートする本学の経済的修学支援制度（十文字奨学金、授業料免除）の効果について検証する。
- ・学友会サイトの運営の主体を学友会委員に委ねるため、運営のためのガイドラインを作成する。
- ・学生の活動を活性化させるために、委員会やクラブ部長と意見交換を活発に行い学生主体の活動や学友会組織を再検討する。また、学生が主催するイベントの機会を増やす取り組みを行う。
- ・休退学者に関する情報の的確な把握と測定を行い、適切な活用を促進する。

（４）就職支援・就業力の育成に関する計画

キャリア教育の充実、就業力の育成、就職活動の支援に関して、次世代社会のあり方に対応させる。

- キャリア形成や就業力育成に関して、社会の動向や次世代社会のあり方を踏まえ、学修内容およびプログラムを、逐次、見直す。
- 課外学修の支援を充実させて、学生が目指す学修成果（進路選択）を達成させる。
- 学生の意向や適性を踏まえた支援と、優良企業求人情報の新規獲得等による学生の選択肢拡大を両輪として取り組み、就職率の維持・向上を図りつつ、就職実績の質的向上を継続する。
- 「女性の生涯活躍」という視点から学生及び卒業生の支援体制を構築する。

【令和4年度事業計画】

- ・キャリア教育共通科目について、初年度の課題と効果を踏まえた改善を図るとともに、正課外就業体験も含めた就業力育成機会の更なる充実を図る。
- ・正課外の就職ゼミ等を含めた一連のガイダンスへの参加意欲向上のため、正課のキャリア教育授業をコアとした新たなキャリア教育科目を実施する。
- ・学生が支援を受ける際の利便性を向上させ、内容を充実させる。
- ・過去実績のある企業、JPX400に該当する新規企業等との情報交換を行う。
- ・求人情報を多様化させて、就職率を維持・向上させる。
- ・外部機関の応援スタッフ等も活用し、在学生のみならず卒業生の就職・転職に係る相談に対応する体制を整える。

（５）研究および地域連携活動の活性化に関する計画

研究および地域連携活動は、本学教育目標を実現する重要な基盤である。この観点から、研究および地域連携活動を活性化する環境・支援体制の充実を図る。

- 学部・学科の特色を明確にしていくことに寄与する研究活動を推進する。
- SDGsや大学間連携を視点に加えた地域連携活動を展開する。
- 地域を志向した教育・研究を充実させる。

【令和4年度事業計画】

- ・各教員の研究テーマを活かせる競争的外部資金の獲得を支援するため、既存のプロジェクト研究費だけでなく、若手や新規研究課題を考えている教員が積極的にチャレンジできるような学内の研究に係わる応募態勢の構築を検討する。
- ・教職員・学生のSDGsへの理解を深め、地域連携共同研究所の研究はSDGsとの関連を採択の条件とし、地域連携活動はSDGsに関連づけた活動を積極的に推進していく。
- ・TJUPの中長期計画及び同計画の活動指標・アウトカム指標を反映した本学の指標に基づき、TJUPによる大学間連携事業に全学的に参画する。

- ・他大学との連携活動を通して得た知見を活かして、教育研究・社会貢献活動に取り組む。
- ・新設「健幸づくり協働研究所」（仮称）の学部学科を超えた横断的研究の体制づくりを支援する。
- ・「地域志向科目」を通して、学生の地域社会への理解と関心を深める学びを支援し、地域連携活動への参加意識を高める。
- ・地域連携共同研究所を中心に、COC 事業で培った地域との繋がりや知見を活かして、地域を志向した研究を深化させ、研究成果の地域への還元とそのための情報発信を推進し、社会への貢献、教育研究の更なる活性化に繋げる。

（６）国際交流に関する計画

グローバル社会で求められる多様な文化と人々を理解し共働・共創するために、「グローバルキーコンピテンシー」を有するグローバル市民を育てる。

- 異なる価値観や文化背景を持つ多様な国籍の留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と国際学生がともに学び合う環境を整える。
- 学生の海外留学を推進するとともに、国内で多文化理解と多文化適応能力を高めるための学習・経験の機会をデザインする。
- 海外協定大学や機関との連携を強化し、学生・教職員交流等の機会を積極的に創造する。

【令和４年度事業計画】

- ・異文化や多文化に関心を持つ学生がどの程度存在し、どのような学びを求めているかニーズを調査する。
- ・留学生のキャリア支援に関して、これまでの実績を見直し、留学生のニーズを調査する。
- ・本学にとって理想的な留学とは何か、本学の留学が目指すところを整理する。
- ・現在の協定校との関係を見直し、整備した上で、協定大学の候補と調整を進める。

（７）大学固有の管理運営に関する計画

学長のリーダーシップのもと、学内資源の全体的な判断に基づく合理的な教員配分を行う。

- 本学の特色及び教育目標の実現に向けて、教員の資質を向上させる。
- 教員の教育研究業務を支援するスタッフの適正化を実現する。

【令和４年度事業計画】

- ・FD委員会との連携の下、大学問題研究会等を通じてタイムリーな話題の提供に努め、教員全員の受講を周知して資質を底上げする。
- ・教員の資質向上のため、前年度競争的外部資金不採択者への申請書の添削、教員全体に向けた応募のためのFAQの作成を行う。
- ・不正防止の観点から講演会やe-ラーニングを活用し、啓発活動を行う。
- ・教員業績評価検討委員会での議論を活性化させ、評価制度導入を具体化させる。
- ・教員との個別ヒアリングを通して業務内容とボリュームを把握して適正人員を確認する。
- ・科研費、動物実験等の外部研修に参加し、常に新たな情報を取り入れ、業務に必要な専門知識やスキルの習得に努める。

機能的、機動的な組織運営を行うため、大学組織を見直し、業務の効率化・高度化を推進する。

○大学の方針（第四次教育体制改革）に沿った組織体制の見直しを行う。

○事務組織について、機動的な対応力を高めつつ、業務の効率化・高度化を推進する。

【令和4年度事業計画】

- ・第四次教育体制改革の方針に沿った教員の適正配置を検討する。
- ・業務のDX化を進めるとともに、業務内容を勘案しながら適切な人員配置を行う。また業務改善提案を引き続き行う。

キャンパスマスタープランに基づき、安全で良好かつ魅力ある大学の教室等施設設備環境を整備する。

○キャンパスマスタープランに基づき、築50年以上の校舎の大規模工事の基本構想・基本計画を入念に図り、工事に着手する。

○女子大学らしい、女子学生の視点に立った、魅力ある施設設備環境を整備する。

○主体的な学修活動を行う学内環境を整備し確保する。

【令和4年度事業計画】

- ・インフラ調査を実施し、基本構想・基本計画立案に向けた基礎資料を作成するとともに、キャンパスマスタープランの作成を進める。（早期に着手すべき部分については、整備を実施する）
- ・大規模工事対象校舎を除く、校舎のLED化を進める。学内および学外施設の洗面所、食堂、外構等の調査を実施し、既存施設内での環境整備方法を検討、整備計画を立案する。
- ・自学修環境整備のため、個人席や個人ブースの増設を進める。

大学全体の内部質保証の体制を確立させる。

○大学全体の内部質保証にかかるPDCAサイクルの各取り組みを充実させる。

【令和4年度事業計画】

- ・継続的な自己点検・評価を実施し、その結果を踏まえて学内の関係各部署等における教育の改善を推進する。

危機管理体制を整備する。

○各種危機を想定した分かりやすい危機体制を構築する。

【令和4年度事業計画】

- ・危機管理規程およびマニュアルを再整備する。

2. 十文字中学校・高等学校

(1) 生徒募集、学校広報に関する計画

安定的な学校運営を維持するために必要な入学者数を確保する。そのために、十文字中学・高等学校の認知度・ブランドイメージを向上させる。

- 各年度の入学者数の目標値を段階的に増やし、令和8年度には中学入学者230名、内部進学を除いた高校入学者90名を確保する。
- ソーシャルメディアを活用した広報、生徒広報委員会の更なる充実などを図り、募集定員の3倍の志願者数を獲得する。
- 誇るべき生徒の活動や教職員の取組からニュース素材を発掘し、中学・高等学校の魅力を適切に発信する。

【令和4年度事業計画】

- ・令和5年度の入学者数の目標を中学200名、高校80名とする。
- ・入試説明会の内容と個別相談の日程の見直しを図り、受験者数を増やす。令和5年度は、募集定員の2.5倍の受験者数を目標とする。
- ・広報部と生徒広報委員が中心となり学校の取り組みを外部に発信するとともに、PR会社を積極的に活用する。

(2) 教育改革、教育の質に関する計画

- ①主体性の伸長、②基礎学力の徹底、③社会性の涵養を促す教育への転換を図る。
- 主体的な学びを促すカリキュラム改革を行い、探究的な学びやPBLを展開する。
- 基礎学力の定着のため、生徒の学力・理解度に最適な学習活動、授業の進度、試験、評価を行う。
- 外部コンテストの参加やPBLの企画運営、地域貢献活動、国際交流により、社会や社会人と関わる機会を持つ。

【令和4年度事業計画】

- ・中学1年、高校1年（自己発信コース）の数学においては、個別最適化のプログラムを導入し、主体的に学びに向かう力を育てる。また、探究的な学びやPBLを全学年で充実させる。
- ・観点別評価を試験的に運用し、令和5年度に備える。高校1年（自己発信コース）に関しては、観点別評価、ルーブリック評価を先行して実施する。
- ・SDGsのコンテストや実習プログラムに参加する。海外研修、大学留学生などによるSDGsのコンテストや実習プログラムに参加する。海外研修、大学留学生などによるエンパワーメントプログラムなどを実施する。

教育の質を向上させる。

- 全校で指導方針を共有するとともに、教科、学年、分掌の教育目標を明文化し、実行プランを策定する。
- 伝統的学力（知識）と新しい学力（課題解決能力）を融合した教育内容と指導体制を構築する。

【令和4年度事業計画】

- ・主体性、基礎学力、社会性の項目ごとに目標を立て、実行プランを策定する。育てたい資質能力の育成のために、ルーブリックを活用する。
- ・高等学校に新設した自己発信コースで新しい教育に挑戦し、実績を積み重ねる。実効性の高い取り組みを他のコースにも反映させていく。

(3) 中学及び高等学校各コースの教育、進学・進路に関する計画

生徒の多様化を受け入れ、生徒一人ひとりに合わせた指導を行う。また、社会での役割を意識して、6年間の成長率を上げる。

【中学】

- 中学3年間のうちに生徒全員が英検準2級を取得する。
- 探究的な学びを通して、主体的な学習者を育てる。
- 読解力、書く力を鍛える。
- 数学で個別最適化の授業を実践する。

【高等学校】

- （自己発信コース）ディスカッション、プレゼンテーション、リサーチを体系的に学び、研究の実践を通して技能を磨く。発信できる英語力を鍛える。
- （特選コース）高校進学（入学）時から人文・理数に分かれ、学力重視に特化し、3年間徹底して学力を伸ばす。
- （リベラルアーツコース）幅広い活動を通して自らの進路を切り開くための汎用的な思考力を養う。

【令和4年度事業計画】

（中学）

- ・英検取得を見据えた授業作りを実施し、英単語集の取り組ませ方の工夫や、英会話力の向上を図る。また、GTECの結果の分析、英検取得率の推移の分析を行う。
- ・学活、道德、終礼の時間を利用して、個人発表の場を多く持つ。生徒に対して、発表をきっかけに世の中の動向に関心を持たせ、まとめる習慣をつけさせる。
- ・論理表現の指導法を研究し、読解力及び書く力を鍛えるための授業に構成を見直す。また、教科会で教授法の研究を実施する。
- ・中学1年の数学において個別最適化授業を実践し、生徒が自走できる仕組みを構築する。

（高等学校）

- ・自己発信コース：探究中心の学びの中で、スキルディベロップメントや教科横断、観点別評価を先取りし、中間試験の廃止を検討する。
- ・特選コース：上位難関大学の情報提供や各大学のプログラムへの参加を通して、生徒に意識付けを図る。
- ・リベラルアーツコース：学習と探究にバランス良く取り組み、自己の可能性を広げられるよう指導を行う。

生徒一人ひとりのキャリアを見据えた進路目標実現のための進学支援を行い、入学時の実力以上の大学へ進学を果たす。

【中高共通】

- 進路指導部を中心に縦の指導法の仕組みを作り、安定的な指導法を確立する。

【高等学校】

- （自己発信コース）自己発信コースで培った能力により、実力相応校（筆記試験で合格するであろう大学）以上の大学へ進学させる。
- （特選コース）高校進学（入学）時から生徒各自が進学目標を高く定め、それぞれが目標とする上位難関大学への進学を達成する。
- （リベラルアーツコース）指定校推薦を利用する生徒に対し、その大学学部の実力相応の力、もしくはそれに近い学力を身に付けさせる。

【令和 4 年度事業計画】

(中高共通)

- ・進路指導部を中心に、指定校推薦の見直しを検討する。進学実績は上位者だけに頼る仕組みから全体を底上げするものへと変える。

(高等学校)

- ・自己発信コース：上位難関大学の総合型選抜入試と海外大学への進学を見据えて、その下地となる体験やマインドを育てる。
- ・特選コース：基本の定着と発展課題に果敢に挑戦することで、ベネッセ模試 GTZ ではクラスの約 3 割は S に、最低でも全員が A2 以上を目標とする。
- ・リベラルアーツコース：上位者への意識づけと下位者への意欲喚起につとめ、指定校推薦に頼らない実力をつける。

(4) 生徒支援、生徒の満足度に関する計画

生徒及び保護者の満足度を上げる。

○中学校からの入学者、高等学校からの入学者それぞれのニーズを再整理する。

○生徒の主体的な学校参画（生徒会や部活などの課外活動を含む）を通じて、自己効力感を高める。

○生徒の転退学を予防する措置を講じる。

【令和 4 年度事業計画】

- ・生徒、保護者に実態調査を実施してニーズと現実とのずれを把握し、改善点を明確にする。
- ・学校行事を生徒が主体的に運営する。生徒広報委員でもさらに生徒の主体性を高める。探究では地域創生に加えて学校作りにも取り組む。
- ・不登校の原因を把握するとともに、スクールカウンセラーとの連携の強化や十文字学園女子大学心理学科との連携を図り、転退学者数を減らす。

(5) 教育体制及び学校改革に関する計画

現代の多様な社会変化に対応した改革の必要性を認識し、生徒ファーストの視点での改革を進める。

○授業以外の業務の整理、分掌の見直し及び ICT 活用などによる教員の働き方改革により、生徒にかける時間を増やす。

○ウイズコロナ時代の学校行事、キャリアプログラムを実施する。

○適切な教員配置計画と施設整備計画を策定する。

○中学・高等学校の経常収支差額のマイナス幅を段階的に減らし、令和 8 年度決算において 1 億円を切ることを目指す。

【令和 4 年度事業計画】

- ・新たな分掌における業務の整理や放課後業務を見直すとともに、事務職員や ICT 支援員と協働を進める。また、拡大企画会を実施し、教員間の意思疎通を図る。
- ・コロナ禍での行事やキャリアプログラムの実施方法を検討する。
- ・教職配置に関する 10 年計画を策定する。また、令和 5 年度に実施する体育館の補修計画を策定する。
- ・財務改善に取り組むべき内容の検証のため、大学法人ではなく中高法人（特に女子中・高を運営する法人）の財務内容を調査する。

3. 十文字女子大附属幼稚園

(1) 園児募集に関する計画

安定的な幼稚園運営を維持するために必要な入園者数を確保する。

○本園の魅力を発信し、各年度の入園者数の定員を確保する。

【令和4年度事業計画】

- ・いちご組の内容充実に努め、入園希望者の確保につなげる。
- ・地域の未就園児が幼稚園に遊びに来る日を設けるなど、新しい取り組みを模索する。

(2) 教育・保育に関する計画

教育・保育活動を充実させる。

○保育者自身の保育力向上を目指して自己研鑽に努め、保育全体の質向上につなげる。

○チーム幼稚園を目指して、協力して保育に当たれる体制・環境を構築する。

○園児の健康・安全が十分に守れる体制・環境を整える。

【令和4年度事業計画】

- ・発達段階に応じた保育内容を熟考し、子ども達にとって必要な体験が段階的に着実に得られるよう実践する。実践した内容を園としてまとめる。
- ・個々の幼児の思い・意欲が引き出され、つながりあうような物的環境・人的環境を創り出す。
- ・各クラスの保育について語りあい、学び合うことで、保育の質向上を目指す。
- ・園内研修を充実させるとともに、他園保育参観・研究会に参加して、自分の保育、自園の保育を捉えなおす。
- ・情報共有する機会を持ち、園全体が一体となって保育をすすめられるよう、学年間での連携、担任とフリーの連携を推進する。
- ・きりん組（預かり保育）、いちご組（就園前保育）の保育者との連絡を密にし、教育時間終了後の保育や就園前の保育が有機的につながっていくようにする。
- ・保育前、保育中、保育後の報告・連絡・相談を徹底して、幼児の健康・安全で豊かな生活を確保する。
- ・定期的に安全点検を重ね、安全な室内環境・園庭環境が常時保てるようにする。
- ・園の保健計画・学校安全計画を見直し、実効性のあるものに改善する。
- ・大学、大学保健管理センターとの連携を深め、危機管理体制を強化する。

(3) 保護者との連携に関する計画

保護者との連携を推進する。

○保護者が園と関わる機会を増やす。

○保護者の育児向上につながる情報・体験を提供する。

○幼児一人ひとりの安定した生活を守りながら、保護者の多様なニーズに対応していく。

【令和4年度事業計画】

- ・園の保育に保護者が参加する機会（親子参加の催し、保育ボランティアなど）や保護者同士の交流の機会を増やす。
- ・保護者が気軽に相談したり、保護者同士で支え合ったりできるよう、懇談や相談の機会を設定する。
- ・保護者の評価・要望を園運営に反映していくために、年度末に保護者アンケートに取り組み、結果を保護者に返す。

- ・できる限りの機会を活用して、遊びの中での幼児の育ちを伝え、保護者の理解を深める。
- ・大学の教員や、外部講師による講演（「はらっぱ」など）への保護者参加を推進する。
- ・父母会と園で相談し、保護者のニーズにあった講演会・ワークショップ等を開催する。
- ・子どもの心身の負担を配慮しつつ、働く保護者や多様な要望に応えられるよう、きりん組の弾力的運用（実施日数、時間、内容など）に努める。

（４）十文字学園女子大学との連携に関する計画

大学との連携を推進する。

○幼児教育を目指す学生の実習の機会に応じる。

○大学の授業・教員の研究への協力・支援に努める。

○大学教員の専門知識や経験を園の教育・保育内容向上に活用する。

【令和４年度事業計画】

- ・各学年の実習が互恵的になるよう、事前打ち合わせ、事後の振り返りを丁寧に重ねる。
- ・園の保育について広く発信できるよう、積極的に授業・研究に協力し、園の保育を捉え直す機会にする。
- ・大学関係者に対して「保育公開」する日を設け、専門性から助言等を受け、保育向上に生かす
- ・園内研修に講師、アドバイザーとして参加してもらうなど、本学教員との連携を強化する。

（５）地域との連携に関する計画

地域との連携を推進する。

○近隣の様々な関係者との連携・連帯を深める。

○地域への情報発信とともに、地域からの意見聴取の機会を設ける。

【令和４年度事業計画】

- ・地域連携のプロジェクトに積極的に協力し、連携を深める。
- ・十文字学園各校の実習生に加え、市内の中学生の実習等を出来る限り受け入れる。
- ・幼小連携の観点から、積極的に小学校との交流をし、小学校生活への滑らかな接続につなげていく。
- ・他園の保育者からの参観申し込みを出来るだけ受け入れる。
- ・地域の関係者を関係者評価委員に任命して、地域の意見を園運営に反映させる。
- ・大学の教員や、外部講師による講演（「はらっぱ」など）を地域に広く発信して、地域の子育て中の保護者の参加を促す。

Ⅱ. 管理運営に関する計画

(1) 学園組織のガバナンス機能に関する計画

学校法人のガバナンスに関する制度改革に即し、学園組織のガバナンス体制の改革を推進する。

○制度改革に対応した、理事・監事・評議員の役割分担を見直し、適切なガバナンス組織を構築する。

○法人本部組織を見直し、設置学校の人事・財務・施設等を一元管理する。

【令和4年度事業計画】

- ・理事の役割分担を検討し、理事の理解を求める。
- ・法人本部各室長が各学校の担当部署との連携を深め、一元管理するための各種計画の策定を始める。

(2) 内部質保証に関する計画

管理運営に関する内部質保証を機能させる。

○客観的な自己点検・評価を行うために、評価指標の設定を含め、実施方法を見直し、その結果を学校運営の改善に反映させる。

○各学校長が直面する諸課題を適切に把握・分析し、解決できるよう、IR (Institutional Reserch) 体制・機能の継続的な充実を図る。

○学校法人に求められる社会への説明責任を引き続き果たすために、ホームページや広報誌等の各種メディアを活用し、教育・研究・社会活動・学校運営等に関する情報を積極的に公開・発信する。

【令和4年度事業計画】

- ・各学校に対し評価指標の設定を促す。
- ・中高では教務事務に調査分析機能を加え、大学ではIR課に募集就職に関するIR機能を加えるなど、IR機能を強化する。
- ・様々な学園内の教育情報を収集しながら、広報誌、HP等で積極的に発信していく。100周年に係る様々なイベント等を発信し本学園の知名度アップにつなげる。

(3) 人事に関する計画

教職員が働き甲斐を持ち、意欲と能力を十分発揮できるように、人事・組織に関する施策を推進する。

○組織の業務内容・役割を見直し、指揮・命令系統を明確にすることで、重複のない効率的な運営のできる組織を構築する。

○事務職員の採用についての手順を明文化し規則等を定め、適正な採用活動を実施する。

○定員管理の考えを導入しながらも、適切な人材配置と人事評価制度の導入（教育職員）及び改善（事務職員）により、個々人が最大限のパフォーマンスを発揮できる環境をつくる。

○教職員の育成方針に沿って体系的な研修制度を構築することで、業務の効率化・高度化だけではなく、能力開発を進めることで次世代のリーダーを担える人材を育成する。

○働き方改革を踏まえながら、教職員のフィジカルヘルス及びメンタルヘルスの支援体制を確立する。

【令和４年度事業計画】

- ・学園組織の連携をとりつつ、実務実態を検証して、組織のスリム化と人員の適正化を図る。
- ・学園事務職員採用に関する規程を作成し、事務職員の適正な採用を行う。
- ・事務職員に関しては現在の評価制度を一層定着させると共に、改善点を検証する。
大学教員では新評価制度の一部トライアルの実施をして翌年の本実施に繋げる。
- ・職員の研修制度については新入職員からの研修体系を構築し、自己啓発支援制度を充実させ、職員の能力を向上させる。
- ・健康管理部門とも連携し、健康診断、ストレスチェックの結果を基に教職員の健康管理面談等を一層進める。

（４）財政基盤に関する計画

堅実な経営基盤の維持・向上のため、財務中長期計画を着実に実行する。

- 財務中長期計画を各学校の教育研究目標の達成に向けた施策と紐づかせるとともに、財務分析に則って随時更新し、学園資源を戦略的かつ効率的に活用する。
- 目標とする入学者の確保や補助金等を含めた事業活動収入の増収を図り、事業活動収支差額比率の向上を図る。
- DX化など業務改善・合理化・効率化の取組みを調査・検討し、有効と判断されるものを実施する。また、省エネルギー対策等を積極的に推進し、経費の有効活用を図る。
- 教育研究経費比率の向上を図るとともに、教育研究の質向上に向け特定資産の計画的な繰入を行う。

【令和４年度事業計画】

- ・各学校の教育研究目標の達成に向け必要な資源についてヒアリングを行い財務計画に反映させる。また、同規模学校法人との財務分析比較を行い、学園として力を置く指標を確定する。
- ・設置学校の募集定員(中学 190 名、高校 100 名、大学 920 名)通りの入学者を確実に確保するため、学校・塾・予備校の訪問と説明会の開催を更に積極的に行い、設置各学校での取り組みをアピールする。補助金等の要件について整理し、獲得可能な要件から対応する。
- ・大学における経費精算システムの運用状況を確認し、中高での導入検討を行う。また、法人カード、電子契約、電子請求書等について検討し対応案を策定する。省エネルギー対策として大学においては LED 化、空調熱源機更新、中高においては実験室改修予算を確保する。
- ・教育研究経費比率 30%に向け予算編成を行う。施設設備引当特定資産について、2 億円の繰入を行う。

(5) 施設整備に関する計画

学生・生徒・園児が学びやすく、また教職員が働きやすく、安全で良好かつ魅力あるキャンパス環境を整備する。

○大学校舎、中・高体育館の大規模改修、更には、河口湖及び湯の丸の研修施設の将来的な在り方も含めた、学園全体のキャンパスマスタープランを策定する。

○学生・生徒・園児及び教職員が安心して学修や就労ができるよう、施設の中長期修繕計画及び施設・設備整備計画を策定し、計画に沿った修繕・整備を行うことで支出経費の平準化を図る。

【令和4年度事業計画】

- ・令和5年度に中・高体育館の大規模改修の実施に向けた調整を行う。学園全体のキャンパスマスタープラン策定に向け、各学校における現状・施設の問題点等を整理する。
- ・各学校における中長期の修繕予定を整理する。

(6) 広報に関する計画

学園全体をはじめとして大学から中高、幼稚園まで認知度・ブランドイメージの向上につながる戦略的な広報活動を推進する。

○外部機関を活用して、適時な広報活動を展開すると同時に、長期的なブランディングにも配慮した戦略的なPR活動を展開する。

○同窓会（さくら会、若桐会）と連携強化し、学園支援の発信拠点となるよう、組織運営・活動の充実を支援する。

【令和4年度事業計画】

- ・PR会社等を活用し、ブランディングを意識したニュース素材の発掘・発信、メディア招致を行う。
- ・同窓会（さくら会、若桐会）会員の取材や記事掲載を通じた卒業生との連携を進めるとともに、学園広報誌や大学広報誌の発送による情報発信を強化する。

(7) その他の管理運営に関する計画

法令を遵守した適正な学園経営を行うとともに、教職員のコンプライアンス意識を高め、不正行為等の未然防止を図る。

○監事監査の実施にあたっての規則等を定め、適正な監事監査の体制を構築する。

○個人情報保護、公益通報者保護、研究者の倫理、公的研究費の適正な執行、研究活動の不正行為の防止等に関する法令及び学内規程の遵守に関し、研修会や学内監査の実施、監査結果の周知等によって更なる徹底を図り、コンプライアンス推進体制を強化する。

○情報管理を徹底するとともに、情報セキュリティ管理のガイドラインを整備し、事故を未然に防止する機能を強化する。

【令和4年度事業計画】

- ・監事監査規程の作成に向けた検討を開始し、併せて内部監査室との年度監査計画の調整・監査業務の連携および三様監査の充実を図る。
- ・公的研究費ガイドライン改正に伴う制度・規程等の見直しを実施すると共に、それに基づいた内部監査を行う。
- ・学生・教職員への情報機器活用にあたっての注意事項を周知し、さらに文部科学省や情報処理推進機構からのセキュリティ情報発信を必要に応じて学園内に注意喚起する。情報セキュリティポリシーに沿った利用を浸透させる。

教育研究環境の安全確保や緊急時対応のために、安全管理体制（危機管理体制）の整備、充実を図る。

○危機が顕在化した場合の対応方法の検討及び潜在的な危機（リスク）の洗い出しを実施し、より具体的な危機管理マニュアルを整備する。

○不測の事態に備え、経営リスクを低減させる危機管理広報の対応及び各メディア等に対するクライシスマネジメントを構築する。

【令和４年度事業計画】

- ・分かりやすく、実効性のある危機管理規程及び危機管理マニュアルを整備する。
- ・外部機関を活用し、本学園のクライシスマネジメント体制づくりを進める。

Ⅲ．施設設備に関する計画

令和４年度の施設設備に関する予算は、施設関連支出として建物支出が 114,300 千円、設備関係支出として教育研究用機器備品支出が 261,500 千円、管理用機器備品支出が 60,700 千円、図書支出が 8,100 千円となっている。

※本学園では、中期目標・中期計画とそれを達成するための事業計画に沿って自己点検・評価を実施し、PDCA サイクルの実行により、本学園の使命・目的等の実現に向かう手法を取っています。そのため、事業計画の前提となる中期目標・中期計画もあわせて掲載しています。